

「中田剛直氏蔵本目録稿」訂正および追加

稿者自身の学力不足が第一の原因たること警告を要しないところであるが、調査校正等に十分な時間がとれなかったため、目にあまる誤脱を生じた。よってここに一応の訂正追加を記す次第である。直すべき事項は左の諸点にとどまらうはずもない。江湖博雅の君子、垂教を吝しみたまうなかれと云爾。

○四頁下段第八行 「…ものか。」と「是香自筆版下本…」の間に「一見自筆稿本の如くであるが」を追加。

○同 下段第一〇行 「佐々木」を「佐佐木」と訂正。

○五頁「(8)古今切紙次第二十三ヶ条 一冊」と「(10)勅撰作者部類 三冊」の間に左の一項追加。

(9) 新古今和歌集巻第九 一卷

室町初期写。濃緑地に唐草を織り出した金襴表紙(二四・六×二五・〇)、外題なし。見返しは金銀箔地に金銀泥で松、薄等を描く。本文料紙斐紙(本文二〇五、〇に礼紙二三・〇を添う)、金銀切箔を散らした斐級にて裏打をほどこし紫檀軸に付く。

内題「新古今和歌集離別歌」。歌一首二行書き、詞書二字下げ、一行一六字前後。総歌数三九首で歌尾に朱合点をかけ隠岐本切出歌を示す(ただし切出歌でありながら、889、891の二首には朱合点なし)。歌頭の

撰者名注記は「衛・有・定・隆・雅」の如くである。緑地布で包み印籠蓋造の桐箱に収む。蓋表に「後小松院様御筆一休和尚御父御門 新古今和歌集 了仲外題有」と墨書。蓋裏に「後小松院 新古今集離別歌〔守村〕の極札を貼る。他の資料と比較するに後小松院筆とはしがたいが、紙質・書風等よりして室町初期を下るものではなからう。本文系統は第二類鷹司城南館旧蔵本に近い。

○五頁下段第二一行 「歌仙家集 三冊」を「歌仙家集補 三冊」と訂正。

○六頁上段第一〇行 「ろ他藤原…」を「ろ也藤原…」と訂正。

○七頁下段第一九行 「雑談六四節(小沢正夫…)」を「雑談六四節以下(小沢正夫…)」と訂正。

○一頁下段第一行の後に左の一文追加。

当館所蔵初雁文庫中の「伊勢物語奥旨秘訣」は掲出本と同内容である。
○一四頁上段第一六行の後に左の一文追加。

宗永旧蔵書は阪本龍門文庫にかなりまとまって存す。

○同 下段第一四行の後に左の一文追加。

「布のもかう放免のつけもの」の項に別筆頭注あり。

○一五頁上段第一一行 「下田氏記」紅梅文庫」を「下田氏記(下田義照、「紅梅文庫」と訂正。

○同 上段第一二行の後に左の一文追加。

古今和歌六帖の版本書誌に関して現在最も詳しいのは、池田利夫解説(契沖全集第一五巻)であろう。

○同 下段第一四行の後に左の一文追加。

卷五は第六丁以下「八・九・七・一〇」の順に錯綴している。

○一六頁下段第八行 「内題「閑居友…」を「内題「閑居友…」と訂正。